

接続教育のための補習教育の実施

工学基礎教育センター 大島 洋一

1. はじめに

平成18年度より、ゆとり教育の世代として象徴される新学習指導要領で学んできた学生が大学に入学することになった。多様化されつつある大学の入学者選抜方法や受験倍率の低下に加え、高校の学習指導要領の改訂などによる履修履歴の変化で、大学新入生の全般的な学力低下が懸念されている。目の前に迫った大学全入を迎える時代的要請は、大学教育のあり方そのものにも影響を及ぼしている。

工学基礎教育センターは、一昨年より、工学部新入生全員に対する数学の全般的な学力の底上げを目標として、教材作成を始め、環境整備、教育実施形態の検討などの工学部新入生全員を対象とする高校から大学教育への接続のための補習教育プロジェクトを準備してきた。このような準備を経て、平成18年度ものづくり創造融合工学教育事業 授業開発・カリキュラム拡充採択プロジェクト「接続教育のための補習教育」が実施された。

2. 実施概要

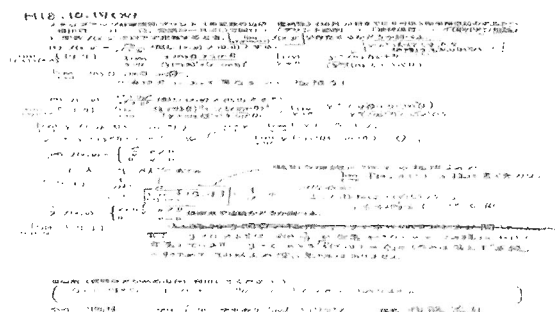
本プロジェクトは工学基礎教育センターを挙げて、事業担当教員2名とセンター教員8名による10人体制で取り組んだ。補習教育は、前・後期合わせて59名の学生が参加されて、個々人の理解度に応じて3つのコースを並行して実施された。

「個別学習相談コース」では、基礎学力不足に履修継続が特に困難と思われる学生に対し、質問・演習などを通じて明らかになった学生の欠点を克服するための指導を行った。



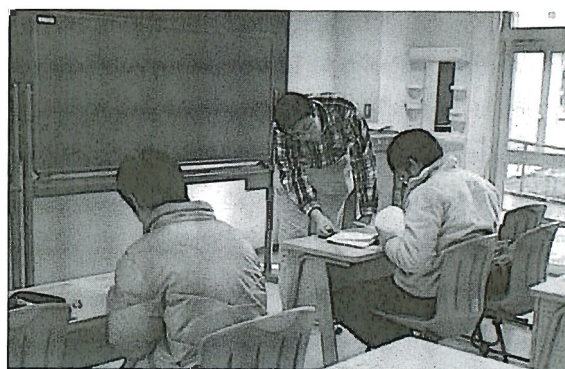
個別学習相談

「プリント添削コース」では、一部の知識が不足している学生を対象に、項目ごとの演習問題を与えて解答させ、基礎教育センター教員による添削を通じて、各学生が自主的に自分の欠点を補っていけるようにした。演習問題や解答の提出は WebCT を利用した。



プリント添削

「補習講義コース」では、数学の基礎学力が不足で、専門基礎科目（微分積分・線形代数）の正規授業科目についていけない学生のために基礎教育センター教員による補習講義が行われた。



補習講義

3. まとめ

高校における履修履歴の変化と全入時代を前にした入学生の資質の低下に対応するため、過去に実施していた職業高校卒業生と帰国子女を対象にしていた補習教育を一般の新入生向けに、個々人の理解度に応じた複数の補習教育の実施形態として拡充して行った。学生の主体的かつ自立的な学習姿勢が期待される。